

「就職氷河期」を生き抜く
求められる社会人になるために

開倫塾
塾長 林 明夫
www.kairin.co.jp

お読みになりやすいように QandA の形でレジュメをつくりましたので、御活用下さい。

Q : 「現代は就職氷河期」と考えますか。

A : (林明夫。以下略)私はそうは思いません。規模の大小に関係なくどこの企業の経営者も、人材が足りない、人材が足りないと嘆いています。

Q : どのような「人材」が足りないというのですか。企業、もっと言えば経営者が求める人材とは何ですか。経営者はどのような視点から人材を選抜するのですか。

A : 「規律ある人材」です。企業の経営者が望むのは、企業の永続性のみです。企業の永続性を支える「規律ある人材」を、規模の大小に関係なくすべての企業の経営者が求めています。

Q : 「規律ある人材」とは何ですか。

A : 例えば、コリンズ氏は近著「ビジョナリー・カンパニー」第3巻で、「規律ある人材」とは何かを次の5点から考えています。

- 1 . 「規律ある人材」は、企業の基本的価値観をよく「理解」し、よく「定着」させている、つまり身につけ、それを「応用」つまり日々の仕事の中で実行している。
- 2 . (1) 「規律ある人材」は、厳しく管理する必要はない。
(2) その人の「動機付け」や「管理」に大量の時間を使う必要はない。
(3) 良い意味で、神経質だし、動機と規律を自分で身につけていて、自分の能力を最大限に発揮しなければ気がすまない。
(4) それが DNA の一部になっている。
- 3 . (1) 「規律ある人材」は、「肩書き」をもっているのではなく、「責任」を負っていることを理解している。
(2) 自分の職務としてあげられている項目と、自分の責任との違いを知っている。
(3) 「私が最終責任を負っているのは…」という形で自己紹介ができる。
- 4 . (1) 「規律ある人材」は、企業とその仕事に情熱をもっている。
(2) 情熱がなければ何も達成できず。
(3) 「規律ある人材」は驚くほど強い情熱をもっている。

- 5 . (1) 「規律ある人材」は、「窓と鏡」の成熟した思考様式をもっている。
- (2) 成功を収めたときは、窓の外を見て、成功をもたらした要因を自分以外のところに見つけ出す。成功に寄与した人たちに光をあて、自分の功績だとほとんど考えない。
- (3) だが、事態が悪くなったときは、後退や失敗の責任が、状況や他人にあったとは主張しない。鏡を見て、「自分の責任だ」という。
- * 以上、ジェームズ・C・コリンズ著、山岡洋一訳「ビジョナリー・カンパニー 衰退の五段階」日経PB社2010年7月26日刊P253～255より引用。

Q：そのような「規律ある人材」を求める企業経営者は、自らが経営する企業をどのようにしたいと考えているのですか。

A：企業経営者の最終的な願いは唯一つ、「永続する企業」にして次の世代にバトンタッチをしたい、「企業の永続にするためのしくみづくり」ただそれだけです。そのためにはどうしたらよいのか。例えばビジョナリー・カンパニーの中で著者コリンズ氏は「良好な企業から偉大な企業への飛躍の法則」として次の4点を掲げて永続する企業の条件を述べています。。

1 . 規律ある人材

(1) リーダーシップ

指導者(あるべき企業経営者)は、野心を何よりも組織と活動に向けており、自分自身には向けていない。

そして、この野心を達成するために必要なことは何でも行うという強烈な意思をもっている。個人としての謙虚さと、職業人としての意思の強さという矛盾した性格をあわせもつ。

(2) 最初に人を選び、その後に目標を選ぶ。

偉大な組織を築いた指導者は、適切な人をバスに乗せ、不適切な人をバスから降ろし、適切な人を主要な席につけ、その後にバスの行き先を決めている。

「だれを選ぶか」をまず決めて、その後に「何をすべきか」を決める。

2 . 規律ある考え

(1) 厳しい現実を直視する。

どれほどの困難にぶつかっても、最後にはかならず勝つという確信を失わない。

それと同時に、それがどんなものであれ、自分がおかれている現実のなかで最も厳しい事実を直視する規律をもつ。

(2) 単純で一貫した概念。

偉大な組織は「単純で一貫した概念」に一致する優れた決定をいくつも下していくことで築かれる

その3つの内容

(ア) 世界一になれる部分

(イ) 情熱をもって取り組めるもの

(ウ) 最高の経済的原動力、又は、最高の資源の原動力になるもの

3. 規律ある行動

(1) 規律の文化

規律ある考えができ、規律ある行動をとる規律ある人材が各人の責任の範囲内で自由に行動することが、偉大な組織を築く規律ある文化のカギである。

規律ある文化では、人々は仕事を与えられるのではなく、責任を与えられる。

(2) 弾み車

偉大な組織を築くとき、決定的な行動や壮大な計画、画期的なイノベーション、たった一つの大きな幸運、魔法の瞬間といったものがあるわけではない。

偉大な組織への飛躍は、巨大で重い「弾(はず)み車」をひとつの方向に押し続け、回転数を増やして勢いをつけていき、やがて突破の段階に入ってもさらに押し続けるようなものだ。

4. 偉大さが永続する組織をつくる

(1) 時を告げるのではなく、「時計をつくる」

ほんとうに偉大な組織は、何世代にもわたる指導者のもとで繁栄を続けていくのであり、ひとりの偉大な指導者、ひとつの偉大なアイデアやプログラムを中心に作られる組織とはまったく違っている。

偉大な組織の指導者は「進歩を促す仕組み」を作っており、カリスマ的な個性に頼って物事を進めようとはしない。

逆に、カリスマとは正反対の性格である場合が多い。

(2) 基本理念を維持し、進歩を促す

永続する偉大な組織は基本的な部分で二面性をもっている。

一方では、「時代を超える基本的価値観と基本的な存在理由」をもち、この基本理念は長期にわたって変わらない。

他方では、「変化と進歩」を常に求めており、「創造性を発揮したいという欲求」がときに「組織の運命を賭(か)けた大胆な目標」の形であらわれてくる。

偉大な組織は、「基本的価値観」(組織にとっての不変の主義)と、「戦略や慣行」(世界の変化に適応して絶えず変えていくもの)をはっきりと区別していく。

* 以上、コリンズ著 2010 年刊、前掲書 280 ~ 286 ページより引用

Q : 林さんは何が言いたいのですか。

A : (1) 言いたいことは唯一つです。これから皆様が就職しようという企業は、今、御紹介したような意味での「永続する企業」「ビジョナリー・カンパニー」でなければ生き残ることはないし、そこで求められるのは「規律ある人材」のみであるということです。

(2) 求められるのは「規律ある人材」が「規律ある考え」に基づき「規律ある行動」をして、「永続する企業」をつくり上げるということのみです。

(3) このことをはっきりと認識した上で、就職活動に臨んで頂ければと希望します。

Q：外国勤務は求められますか。

- A：(1) TPPに限らず、経済連携協定が様々な地域や国々との間で今後どんどん締結されますので、たとえ日本企業に勤務しても、日本だけに勤務して仕事が済むかと言えば、そうでない企業がどんどん増えると思います。
- (2) 日本国内だけにとどまる企業、つまり社員の外国勤務率の低い企業は持続性が低く、生き残れないと考えられます。
- (3) 持続する企業は国際化がどんどん進み、その企業を支える「規律ある人材」は外国勤務が当然という時代に入ったと言えます。

Q：英語は必要ですか。

- A：(1) 英語は世界の共通語ですから、国際化した企業においては、英語によるコミュニケーション能力は必ず求められます。
- (2) 英語の学習環境は、大学が最も整っています。大学生のうちにできる限り身につけて下さい。私なら、卒業単位にならなくても、毎日英語関係の授業を卒業の前日まで受けます。授業のない時間や授業のない日は、大学の図書館に居続けて英語の勉強をします。
- (3) 大学生にとって英字新聞は必読です。
まずは、一面の記事を辞書を引ながらでも毎日、全部読みましょう。
辞書で調べた語句はノートに記録し、毎日すべて暗記(スラスラ読めるようにすること、書けるようにすること)しましょう。
記事をコピーし、1つずつ切り抜きノートに貼り、そこに調べた意味をメモするのも1つの方法です。
英文読売(Daily Yomiuri)や英文の朝日新聞がついている International Herald Tribune がお勧めです。
- (4) 高校の文法の教科書を繰り返し音読し、文法的に正しい英語を身につけよう。
- (5) TOEICにも挑戦。まずは600点突破を目指しましょう。
*「英検準2級」は最低ラインです。2級、準1級にも挑戦を。

Q：採用試験に「新聞」は役に立ちますか。

- A：(1) 「新聞を一面から毎日1時間以上読まずして採用試験合格はない」と私は考えます。
- (2) 家で購読している新聞は、毎日読んで下さい。家で購読していない新聞は、大学の図書館で数紙を毎日読んで下さい。
- (3) 自分の希望する職種に関する記事は、「切り抜き」や「コピー」をして、ファイルし続けること。繰り返しそのファイルを見直すこと。
- (4) なぜそのようなことが新聞で取り上げられるのか、自分はどのように考えるのかが述べられるように、記事をノートにまとめ、何回も何十回も読み返して自分のものにして下さい。
- (5) 英字新聞の読み込みとスクラップも。

Q：採用試験に「大学の勉強」は役に立つのですか。

A：(1)役に立ちます。大学での活動は全部役に立ちます。何から何まで役に立ちます。

(2)「学年末テスト」は大切にしてください。よく準備をして臨んで下さい。

(3)入学してから今まで大学で学んだことを、この春休みにはすべて勉強し直すことをお勧めします。

(4)「教科書」、「プリント」、「資料集」、「ノート」などをもう一回授業を思い出しながらゆっくりと読み直すと、「理解」が深まります。一度「理解」したら、繰り返し読み、大切なことは何も見ないでスラスラ言えるまでに「音読練習」をする。大切な語句は何も見ないで書けるようになるまで「書き取り練習」をすることが大切です。

(5)大学で勉強したことが「何も見ないでスラスラ言えるようになる」「正確に書けるようになる」ことは、就職に有利です。

(6)新年度の履修科目について「テキスト」を予習することも大切です。「テキスト」を辞書や参考書などを用いて「予習」し、わからないところを明確にしてから授業に臨むこと。

Q：作文、論文式の試験はどうしたらよいのですか。

A：(1)1つのテーマについて、自分はこのように考えるとしっかりとした考えを述べるのが大切です。

(2)例えば、多くの企業では1つの課題の解決について次のように考えます。

「観察」...何が問題か。

「問題の発見」

「分析」...何が本当の原因か。

「原因の推定」

「判断」... { とりあえずどうしたらよいのか。

「応急措置」

{ どのようにしくみを変えたらよいのか。「制度変更」(システム改革)

そのために最良の実践例を探し出し、素直な心で学び続ける...ベストプラクティスのベンチマーキング

できるだけ簡単な形にして導入...「トレード・オフ」

標準化...「マニュアル」づくり

修正

P(Plan、計画) D(Do、実行) C(Check、評価) A(Action、修正)をまわし続ける

(3)表現方法や文字は、何百人もの答案を採点する試験官の立場で考える。

「です、ます調」か、「である調」に統一。

文字は楷書体で読み易く書く。

マンガ文字やくせのある字の人は「ペン習字練習帳」を購入し、美しい文字が書けるようになるまで何回も何回も練習をする。

「数字」も美しく書けるようになるまで練習をする。

「英語」(アルファベット)は「ペンマンシップ」でブロック体、筆記体が美しく書けるようになるまで練習を。

*この就職試験で文字を美しく書けるようにする。

Q : 「エントリーシート」の書き方、「SPI」の試験の対応方法は

A : (1) エントリーシートは丁寧な言葉遣いで書く。

はじめから入力しないで、まずは「手書き」をして、よく校正してから一気に入力する方がよい表現になり、また、時間も節約できる。内容が大切。

「ブラインド・タッチ」の練習も、この際してしまうのも一手。

(2) SPI は、一番易しい問題集をジャンル別に 1 冊買い求め、5 ~ 6 回終了させてから少しずつレベルを上げる。

なぜそのような解答になるのかよくわからない人は基礎力不足、「理解」不足なのだから、基本から勉強し直す。そこで役に立つのが、SPI の単元別の解説本。必ず 5 ~ 6 回読む。

SPI の問題集は 5 ~ 6 回必ずやる。問題を見た瞬間に正解が出るまでにする。それまで別の問題集に移らない。

(3) 「練習、練習、また練習」あるのみ。

「練習は不可能を可能にする」

Q : 面接試験のポイントは何か。

A : (1) 服装第一

下着が見える服装は避ける。透けて見えるものもダメ。

髪型、髪の色にも注意。

(2) あいさつ第一

元気なあいさつ。

声が小さければ、話は相手に伝わらない。

モゴモゴ口ごもっては、話は相手に伝わらない。

「発声」練習を

「お辞儀の仕方」の練習を。

(3) 笑顔を

ニコツとしていて感じがよい方がよい。

「スマイル・トレーニング」を。

(4) 消極的なことは口にしない。

(5) 自分の好きな言葉をいくつか用意しておく

「自分の未来は自分で切り開く」

「自己責任」「自助努力」

「あきらめたらおしまい」

「一生勉強、一生青春」

「教育ある人とは、死ぬ直前まで勉強し続ける人」

Q：読書は就職に役立つのですか。

A：(1)読書をしない人は大学卒業者とは考えないのが企業経営者。

(2)求められるのは、読書による思慮深さ、自分を振り返る力を身につけること。

(3)中学校や高校、大学の教科書や授業で紹介されたような本をしっかりと読み込むこと。

(4)本を読んで「わからない語句」に出会ったら、必ず辞書を引き続ける。調べたものは「語句ノート」にメモ。いつも「語句ノート」を1ページから読み直し、語彙を増やす。「書き取り練習」も。

(5)地名は地図帳で確かめる。地名はどんどん覚える。書けるまでにする。

(6)新聞を含めた読書量が「説明する能力」を育てる。求められるのは、自分の仕事について企業を代表して「説明する能力」をもつ人材。「説明責任」を果たせる人材。

Q：就職した後も勉強は必要ですか。

A：(1)もちろん必要です。

(2)1つの仕事について学ばなければならないことは、文字通り山ほどあります。「学ぶ」とは「うなるほど」と「理解」して、「理解」したことをすべて身につけることを言います。

(3)本当の勉強は就職してからと言えます。

(4)仕事をしている間は、毎日が勉強、勉強、また勉強。これが実情。

(5)他人から教えられる場合が多いので「メモ」は大事。

人の話を一語残らずメモし続けるのは大事な能力。

後で「メモ」を「整理」し、しっかり身につけるのも大切な能力。

「仕事はメモで身につける」

(6)文字を読んで仕事の勉強をすることも多い。辞書と資料集はいつも身近におき、たえず引きまくること。

(7)中学校、高校、大学の教科書、参考書、資料集、ノートも仕事に役立つ。

*絶対に処分しないこと。

(8)一番大切なのは、「勉強の仕方」、「学び方を身につける」能力。

どのように「理解」するのか。

「理解」したことをどのように身につける(「定着」する)のか。

「理解」し、「定着」したことをどのように用いる(「応用」する)のか。

*大学の勉強を通して、自分なりに「学び方」を身につけてほしい。

Q：最後に一言どうぞ。

A：(1)励まし合う仲間をもつこと。

(2)更に勉強を深めるために大学院進学、専門学校進学、他大学への再入学や研究生や科目等履修生になることも一手。

(3)健康第一で頑張りましょう。

以上

御質問があったら遠慮なくどうぞ

2011年1月10日記